

デジタルワイヤレス レシーバー

取扱説明書

DWR-R01D

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

DWX **WiDIF-HP**
DIGITAL WIRELESS  Cross Remote

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検を実施する

5年に1度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 炎が出たら
- 落としたら



- ❶ 電源を切る。
- ❷ 電源ケーブルや接続コードを抜く。
- ❸ お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる可能性があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



アース線を
接続せよ

目次

⚠ 警告	4
⚠ 注意	5
その他の安全上のご注意	6
特長	7
各部の名称と働き	9
フロントパネル	9
リアパネル	12
準備	13
ラックマウント	13
システム構成例	14
付属アンテナ使用例	14
マルチチャンネルシステムシステム構成例	16
ST リモートシステムの例	19
NT リモートシステムの例	20
受信チャンネルの設定	21
周波数帯域を選択する	21
グループ / チャンネルを選択する	21
アクティブチャンネルスキャン機能を使う	22
クリアチャンネルスキャン機能を使う	22
秘匿通信機能を使う	23
暗号鍵方式を使う (SECURE KEY)	23
パスワード方式を使う (PASSWORD)	23
メニューの表示と詳細設定	24
メニューの構成と階層	24
メニューの基本操作	25
RECEIVER (レシーバー) メニュー	25
グループ / チャンネルの選択 (GP/CH)	25
アクティブチャンネルスキャン機能 (ACTIVE CH SCAN)	25
クリアチャンネルスキャン機能 (CLEAR CH SCAN)	25
秘匿通信機能 (ENCRYPTION)	26
アナログ音声出力レベルの設定 (BAL OUT LEVEL)	26
TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニュー	26
トランスミッター名称の表示 (NAME)	26
省電力設定の表示 (POWER SAVE)	26
送信電力設定の表示 (RF POWER)	27
オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)	27
アッテネーターの表示 (ATT)	27
ローカットフィルター設定の表示 (LCF)	27
+48 V 電源設定の表示 (+48V)	27
累積使用時間の表示 (TIME)	27
内蔵信号発生の表示 (INTERNAL SG)	27

POWER スイッチのロック (PWR SW LOCK)	27
POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)	27
RF REMOTE メニュー	27
Cross Remote を使う (RF REMOTE)	27
ペアリングを行う (PAIRING)	27
リモートのモードを表示する (MODE)	29
UTILITY メニュー	29
受信に関する機能 (RF サブメニュー)	29
音声に関する機能 (AUDIO サブメニュー)	30
ネットワークに関する機能 (NETWORK サブメニュー)	30
アラートに関する機能 (ALERT FUNCTION サブメニュー)	30
ディスプレイに関する機能 (DISPLAY サブメニュー)	31
工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)	31
ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION)	31
本機でトランスミッターの設定を変更する	32
グループ / チャンネルの設定 (GP/CH)	32
トランスミッター名称の設定 (NAME)	32
省電力設定 (POWER SAVE)	32
送信電力の設定 (RF POWER)	32
オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)	32
アッテネーターの設定 (ATT)	32
ローカットフィルターの設定 (LCF)	32
+48 V 電源設定の変更 (+48V)	32
トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)	32
内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)	33
POWER スイッチのロック設定 (PWR SW LOCK)	33
ブロックダイアグラム	34
ALERT インジケーターが点灯したら	35
エラーメッセージ	36
故障かなと思ったら	37
使用上のご注意	38
使用・保管場所	38
お手入れ	38
主な仕様	39
保証書とアフターサービス	40
保証書	40
アフターサービス	40



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

雨の当たる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所や、この取扱説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

規定外の電圧で使用しない

本機は、リアパネルの VOLTAGE SELECTOR スイッチによって AC100V および AC120V で動作します。正しい電圧で使用しないと、火災や感電の原因となります。



指示

コンセントを根本まで差し込む

コンセントに電源ケーブルを根本まで差し込んでください。差し込みが不完全だと、ほこりがたまり、トラッキング火災の原因となります。



禁止

電源ケーブルや接続コードを傷つけない

電源ケーブルや接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源ケーブルを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源ケーブルが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に交換をご依頼ください。



禁止

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

変形したり、故障したりすることがあります。特に、窓際に置くときなどはご注意ください。



水ぬれ禁止

水にぬれる場所で使用しない

水ぬれすると、漏電による感電や、発火の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



分解禁止

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。内部点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご依頼ください。

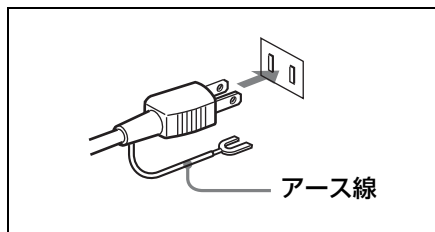


アース線を 接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- 電源プラグから出ているアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。



指示

付属の電源ケーブルを使う

付属の電源ケーブルを使わないと、火災や感電の原因となることがあります。



指示

本機は日本国内用です

交流 100V でお使いください。国内で交流 120V で使用する際には、使用する電圧に合わせてリアパネルの VOLTAGE SELECTOR スイッチを切り換えてください。



注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



指示

安定した場所に設置する

製品が倒れたり、搭載した機器が落下してけがをすることがあります。十分な強度がある水平な場所に設置してください。



指示

移動時にはコード類をはずす

電源ケーブルや接続コードは、足に引っかけると本機の落下などによりけがの原因となることがあります。移動時には、コード類をはずしてください。



指示

指定された方法でラックマウントする

ラックの取扱説明書に記載された方法以外で本機をラックに取り付けると、落下して故障やけがの原因となることがあります。



禁止

製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



注意

ディスプレイ画面を長時間継続して見ない

眼精疲労や、視力低下の原因となります。

その他の安全上のご注意

機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。

万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

警告

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。

アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

注意

付属の電源コードは本機の専用品です。

他の機器には使用できません。

で注意

LAN 端子には直接手を触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、LAN ケーブルの取り付け、取り外しは、静電気を逃がしてから行ってください。

特長

DWR-R01D は、770 MHz ～ 806 MHz 帯（FPU-1CH 帯、FPU-2CH 帯、FPU-3CH 帯、FPU-4CH 帯）を使用した特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備（A 型）および 806 MHz ～ 810 MHz 帯を使用した特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備（B 型）を 2 波受信できるデジタルワイヤレスレシーバーです。

DWX とは

DWX は、業務用マイクロホンに代表される音作りのノウハウと、安定性に定評のあるワイヤレス伝送技術に、最新かつオリジナルのデジタルオーディオ技術を融合させたソニーのデジタルワイヤレスマイクロホンシステムです。

DWX は、デジタルならではの高音質伝送に加え、多チャンネル同時運用、暗号化伝送、トランスミッターの状態をモニターするメタデータ伝送、さらに本線系と別系統の通信機能をもつことで、レシーバーからトランスミッターをコントロールするといった、さまざまな革新的ワークフローを実現します。

WiDIF-HP とは

「WiDIF-HP」（WiDIF：Wireless Digital Interface Format、HP：High Profile）は、ソニーが独自に開発した、システムの核となるワイヤレスのデジタルオーディオインターフェースです。

これにより、高音質かつ低遅延、そして多チャンネル同時運用と秘匿伝達を実現しました。

“Cross Remote” とは

“Cross Remote” は、レシーバー本体やレシーバーに接続されているコンピューターにインストールされたコントロールソフトウェア “Wireless Studio” から、トランスミッターを監視／制御するためのシステムです。

例えば、衣装の下などに装着されたトランスミッターの設定変更も、ワイヤレスで簡単に行えます。

混信が少ない免許制 A 型規格と免許不要の B 型規格

本機は、運用調整により他との混信の心配が少ない A 型規格および免許不要の B 型規格に準拠したラジオマイクレシーバーです。簡単なボタン操作で A 型帯域 285 チャンネルおよび B 型帯域 30 チャンネルの切り換えが可能です。

多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵

A 型規格では各 FPU 帯でデジタル 18 波、B 型規格では 10 波同時運用プランを内蔵しているため、FPU-1CH ～ 4CH

と B 帯で最大 82 チャンネル同時運用を実現します。また、アナログ、デジタル混在プランも内蔵しているため、混在使用時にもチャンネルの設定が簡単に行えます。

システム規模に応じたワイヤレスリモートコントロールシステム構築

デジタルワイヤレストランスミッターの設定を、本機のディスプレイで確認しながら遠隔コントロールできます。また、付属の PC コントロールソフトを使用して PC から遠隔コントロールすることもできます。システムの規模や用途に応じて、以下の 2 種類のワイヤレスリモートコントロールシステムを構築することができます。

ST リモートシステム（スタンドアロンワイヤレスリモートコントロールシステム）

工場出荷時に本機リアパネルの REM ANT 端子に接続されているホイップアンテナを通じて、本機からトランスミッターを制御します。

NT リモートシステム（ネットワークワイヤレスリモートコントロールシステム）

別売りのリモートコントロールユニット RMU-01 を使用することにより、最大で 82 台のトランスミッターのワイヤレスリモートコントロールが可能になるため、多チャンネルシステムに対応可能です。RMU-01 を複数台配置することにより、エリアの拡大も可能です。

ワイヤレススタジオによる運用状況の監視と各機器の遠隔コントロール

付属ソフトウェア Wireless Studio を使用することにより、運用に使用する各レシーバー、トランスミッター、RMU のステータスを一括監視したり、各レシーバー、トランスミッターの設定を変更することができます。また、設定ファイルの保存、呼び出し、設定の一括編集ができます。

2 チャンネルレシーバー

2 台のトランスミッターからの電波を同時受信可能な 2 チャンネルレシーバーです。最大 8 台までアンテナカスケード接続することができ、アンテナディバイダーなしで 16 チャンネルまでの運用も可能です。また、別売りの UHF アンテナディバイダー WD-850 を使用すると、16 チャンネル以上のシステムを構築することもできます。

チャンネルスキャン機能を搭載

未使用のチャンネルを探す「クリアチャンネルスキャン」と、使用中で受信可能なチャンネルを探す「アクティブチャンネルスキャン」の 2 種類の周波数スキャン機能を搭載しています。これにより、スピーディーで安全な運用チャンネルのセッティングが行えます。

多彩な情報表示と操作性の向上

大型有機 EL 表示素子（Organic Light-Emitting Diode）の採用により、運用時に必要な多彩な情報表示が可能になりました。

大型表示窓と各メニューボタン、およびジョグダイヤルによるスピーディーな操作性を実現しています。

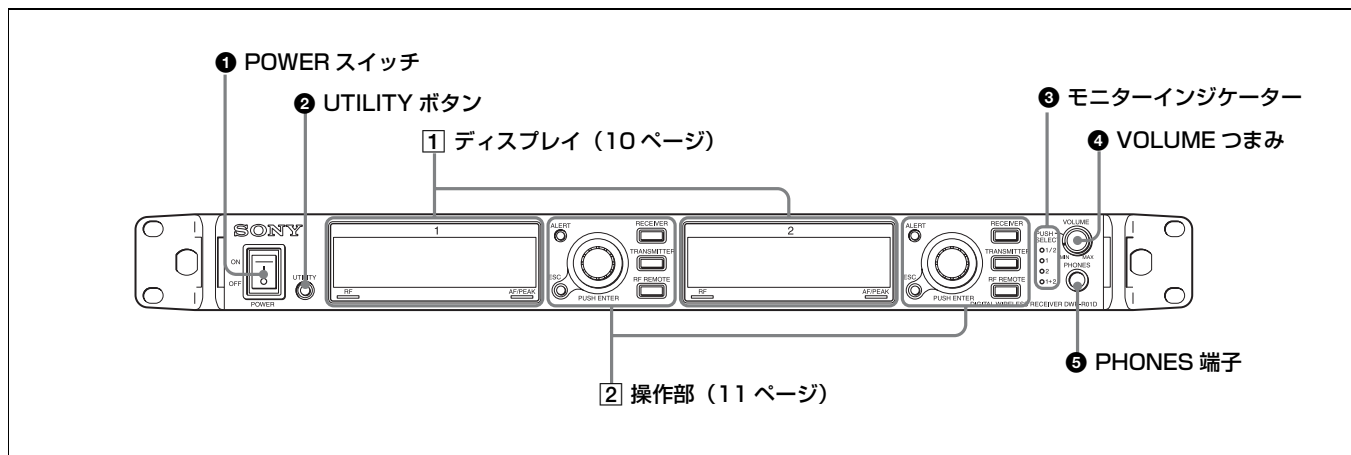
また、運用上のトラブルが発生した場合にはフロントパネル上の ALERT インジケーターが点灯するため、迅速な対応が可能です。

ラックマウント

EIA 規格の 19 インチ標準ラック（高さ 1U サイズ）にマウントできます。また、ネジ取り付け部には側板一体型の堅牢な構造を採用しています。

各部の名称と働き

フロントパネル



① POWER (電源) スイッチ

本機の電源を入 / 切します。

Ⅰ側を押すと、電源が入ります。主電源を切るときは、○側を押します。

② UTILITY (ユーティリティーメニュー表示) ボタン

押すと UTILITY メニューを表示します。UTILITY メニューの操作中には明るく点灯します。

③ モニターインジケーター

VOLUME つまみで選択したチャンネルが点灯します。

1/2：ヘッドホンの L チャンネルから 1CH の音声、R チャンネルから 2CH の音声を出力する。

1：ヘッドホンの L/R チャンネルから 1CH の音声を出力する。

2：ヘッドホンの L/R チャンネルから 2CH の音声を出力する。

1 + 2：ヘッドホンの L/R チャンネルから 1/2CH のミックス音声を出力する。

④ VOLUME (モニターチャンネル選択 / モニター音量調節) つまみ

押すたびに、PHONES 端子から出力するチャンネルが切り換わります。回すと、選択したチャンネルのモニター音量を調節します。

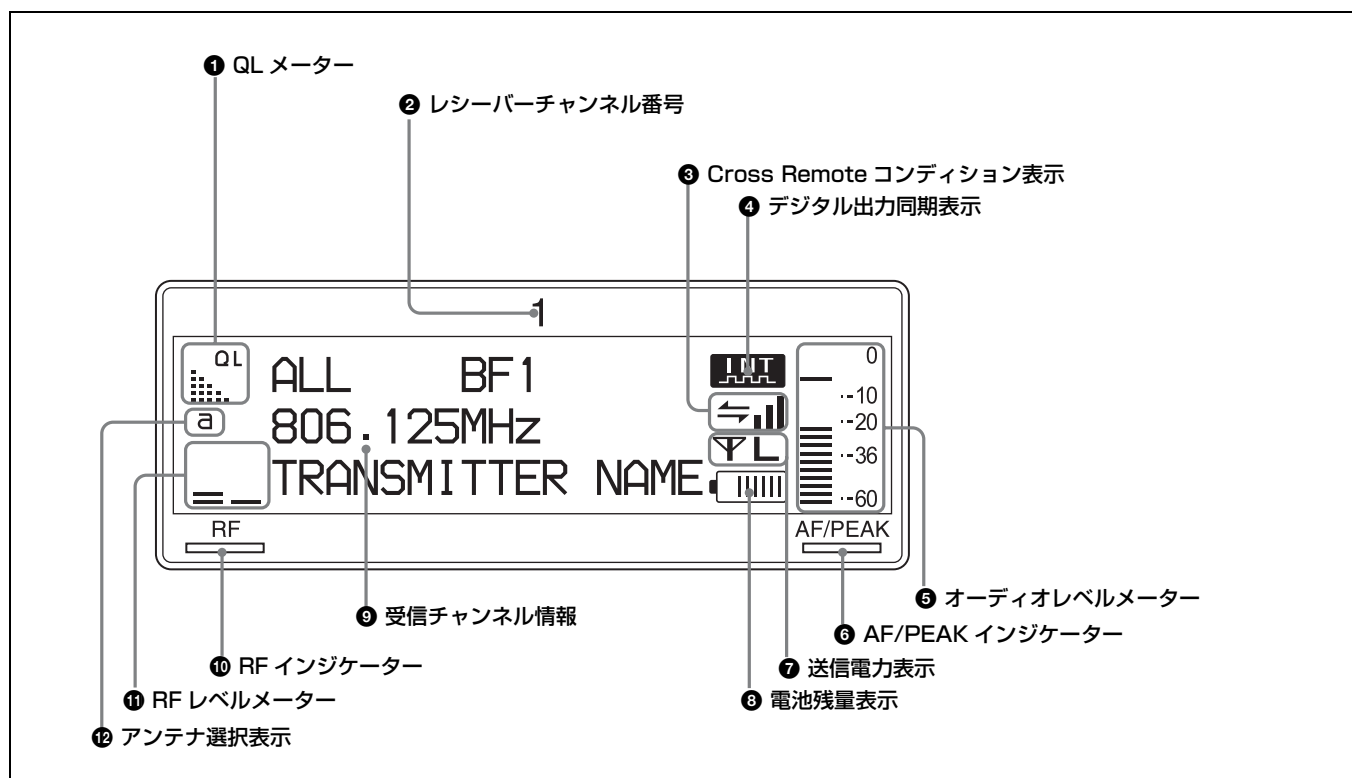
⑤ PHONES (ヘッドホン) 端子 (標準ステレオジャック)

ヘッドホンを接続します。

1 ディスプレイ部

以下のイラストでは、メニュー画面に入る前の状態（トップ画面）の表示内容を示しています。トップ画面は、レシーバーとしての情報表示だけでなく、トランスミッターからメタデータで送られてくる情報も表示するため、運用監視画面として使用できます。

チャンネル1とチャンネル2のディスプレイの表示内容は同じですが、ここではチャンネル1のディスプレイを使って説明しています。



1 QL（受信品質）メーター

受信データの品質をメーター表示します。

本機とトランスミッターが離れて RF 信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合などに起こる受信信号の品質の悪化を監視することができます。

2 レシーバーチャンネル番号

本機のチャンネル番号を表示します

3 Cross Remote コンディション表示

ペアリングされたトランスミッターとの通信状況を 4 段階で表示します。

📶：通信状況が良好

📶：通信状況がやや良好

📶：通信状況がやや良くない

📶：通信状況が良くない

📶：ペアリングされたトランスミッターと通信できない

ご注意

本機の RF REMOTE 機能（27 ページ）を OFF にしている場合、このアイコンは表示されません。

4 デジタル出力同期表示

DIGITAL OUT 端子から出力される信号の同期状態を表示します。

INT：内部クロックと同期している

EXT：WORD SYNC IN 端子から入力された信号と同期している

5 オーディオレベルメーター

トランスミッターに入力されたオーディオ信号のレベルを表示します。

トランスミッターの基準入力レベル以下の入力を示すセグメントは、減光表示されます。

トランスミッターの基準入力レベルが「MIC」に設定されている場合：- 36 dBfs 以下を示すセグメントが減光表示

トランスミッターの基準入力レベルが「LINE」に設定されている場合：- 20 dBfs 以下を示すセグメントが減光表示

⑥ AF/PEAK (オーディオ入力) インジケーター

トランスミッターに入力するオーディオ信号が基準レベルを超えると緑色に点灯し、トランスミッター内の A/D コンバーター入力が -3 dBFs 以上になると赤く点灯します。

⑦ 送信電力表示

トランスミッターで設定された送信電力レベルを表示します。この設定は TRANSMITTER メニュー (26 ページ) で変更できます。

▼ H: 10 mW で送信しています。

▼ L: 1 mW で送信しています。

◆ トランスミッターの設定変更について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(32 ページ) をご覧ください。

⑧ 電池残量表示

受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量を 8 段階で表示します。

電池残量表示が点滅を始めたなら、すぐにトランスミッターの電池をすべて新しいものに交換してください。

◆ トランスミッターの電池交換について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑨ 受信チャンネル情報

受信情報とトランスミッター名を表示します。

1 行目: グループとチャンネル

2 行目: チャンネルの周波数

3 行目: トランスミッターの名前と SLEEP 状態

⑩ RF (受信電波) インジケーター

ANTENNA a/b IN 端子から入力された受信電波のレベルによって、以下のように点灯します。

橙色点灯: 80 dB μ 以上

緑色点灯: 25 ~ 80 dB μ

赤色点灯: 15 ~ 25 dB μ

消灯: 15 dB μ 未満

⑪ RF (受信電波) レベルメーター

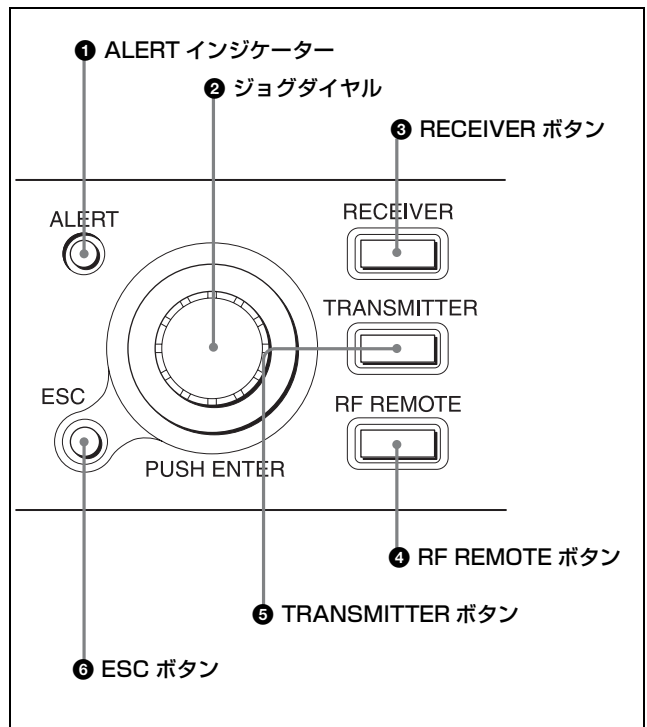
ANTENNA a/b IN 端子から入力された受信電波のレベルをメーター表示します。入力レベルにより点灯するゲージの数が変わります。

⑫ アンテナ選択表示

本機のダイバーシティー機能によって受信選択されているアンテナ入力を表示します。

② 操作部

チャンネル 1 とチャンネル 2 の操作部は同じです。



① ALERT (警告表示) インジケーター

本機に運用トラブルの可能性が発生したときに赤く点灯して警告します。

◆ 警告が発生する具体的な原因と対応方法について詳しくは、「ALERT インジケーターが点灯したら」(35 ページ) をご覧ください。

② ジョグダイヤル

ディスプレイに表示される機能や値を選択するときに回し、選択した機能や値を確定するときに押します。

③ RECEIVER (RECEIVER メニュー選択) ボタン

RECEIVER メニューを表示するときに押します。RECEIVER メニューを操作中は、明るく点灯します。

④ RF REMOTE (RF REMOTE メニュー選択) ボタン

RF REMOTE メニューを表示するときに押します。RF REMOTE メニューを操作中は、明るく点灯します。

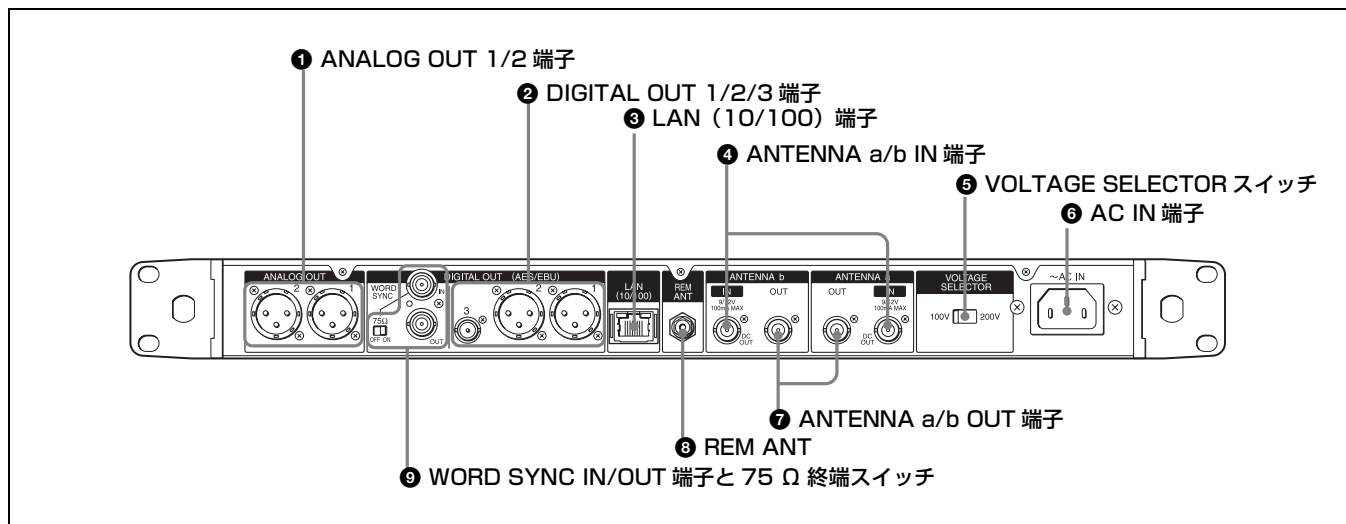
⑤ TRANSMITTER (TRANSMITTER 仮想メニュー選択) ボタン

TRANSMITTER メニューを表示するときに押します。TRANSMITTER メニューを操作中は、明るく点灯します。

⑥ ESC (エスケープ) ボタン

メニュー操作時に、ひとつ前の画面に戻るときに押します。

リアパネル



① ANALOG OUT (アナログ出力) 1/2 端子 (XLR)

ミキサーやアンプなどのアナログ入力端子に接続します。メニュー操作でアナログ音声出力レベルの切り換えが可能です。

◆ 詳しくは、「アナログ音声出力レベルの設定 (BAL OUT LEVEL)」(26 ページ) をご覧ください。

② DIGITAL OUT (デジタル出力) 1/2/3 端子 (1/2 端子: XLR 3 端子: BNC-R)

AES3 フォーマットのデジタル音声信号を出力します。ミキサーやアンプなどのデジタル入力端子に接続します。

③ LAN (イーサネット) (10/100) 端子 (RJ-45)

100Base-TX 方式のネットワーク接続用端子です。Windows パソコンまたはハブと接続し、付属のソフトウェア「Wireless Studio」を使用して通信を行います。パソコンとの接続には、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを 100 m 以内の長さで使用してください。接続に必要なケーブルの長さが 100 m を超える場合は、パソコンと本機との間にハブなどを接続してください。また、パソコンとの接続方法によって、使用するケーブルを以下のように変えてください。

パソコンを直接接続する場合: クロスケーブル

ハブを介してパソコンと接続する場合: ストレートケーブル

ご注意

- LAN 端子には直接手を触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。
- 安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクタをこの端子に接続しないでください。接続については本書の指示に従ってください。

④ ANTENNA a/b IN (アンテナ a/b 入力) 端子 (BNC-R)

a/b IN 端子それぞれに、別売りの UHF アンテナ AN-820 や、付属のホイップアンテナを取り付けます。アンテナに供給する電源は、メニュー操作で DC 9 V/12 V の切り換えが可能です。電源を必要としないアンテナを接続する場合には、電源供給をオフにすることもできます。

◆ 詳しくは、「アンテナへの DC 電源供給設定 (ANT DC OUT)」(30 ページ) をご覧ください。

また、接続形態に応じてアンテナのアッテネーターの設定もメニューから可能です。

◆ 詳しくは「アンテナ入力のアッテネーター設定 (ANT ATT a/b)」(29 ページ) をご覧ください。

ご注意

- この端子をショートさせないでください。
- 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R01D は、ANT ATT a/b を「0dB」、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

アンテナゲインとケーブル損失について

本機にブースター付きのアンテナを接続した場合、アンテナのゲインがアンテナと本機の間と同軸ケーブル損失を上回っていると、RF 入力レベルが本機の許容範囲を超えるおそれがあります。

本機でアンテナのアッテネーターを設定の上 (0dB、5dB または 10dB) (29 ページ)、以下の計算式が成立するようにケーブル損失を設定してください。

本機の RF インジケータは 80 dB μ 以上の入力で橙色点灯となりますので、目安としてください。

アンテナブースターのゲイン – アンテナと本機の間のカابل損失 – アッテネーター設定 (dB) = 0 dB 以下

ケーブル損失の目安 (800 MHz 帯)

ケーブル	ケーブル長さ			
	10 m	30 m	60 m	100 m
3D-2V	5.2 dB	15.2 dB	31.0 dB	51.0 dB
5D-2V	2.8 dB	8.3 dB	16.6 dB	27.5 dB
5D-FB	1.8 dB	5.6 dB	11.2 dB	18.0 dB

◆ アンテナブースターのゲインについては、ご使用になるアンテナに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ケーブルのメーカーによって、ケーブル損失には多少の差があります。
- ANTENNA a/b IN 端子の抵抗は、定格 50 Ω です。75 Ω のケーブルを使用すると、通常は上表の数値よりも数 dB 低い値になります。

⑤ VOLTAGE SELECTOR (電圧選択) スイッチ

本機は、AC100 V および AC120 V の電源電圧に対応します。電圧に合わせて、このスイッチを切り替えます。

⑥ AC IN 端子

付属の AC 電源ケーブルで AC 電源に接続します。

⑦ ANTENNA a/b OUT (アンテナ a/b 出力) 端子 (BNC-R)

a/b 端子それぞれに DWR-R01D を接続し、最大 8 台までカスケード接続することができます。

⑧ REM ANT (ST リモートアンテナ)

ST リモートシステム用外部アンテナです。

⑨ WORD SYNC IN/OUT (同期信号入出力) 端子 (BNC-R) と 75 Ω 終端スイッチ

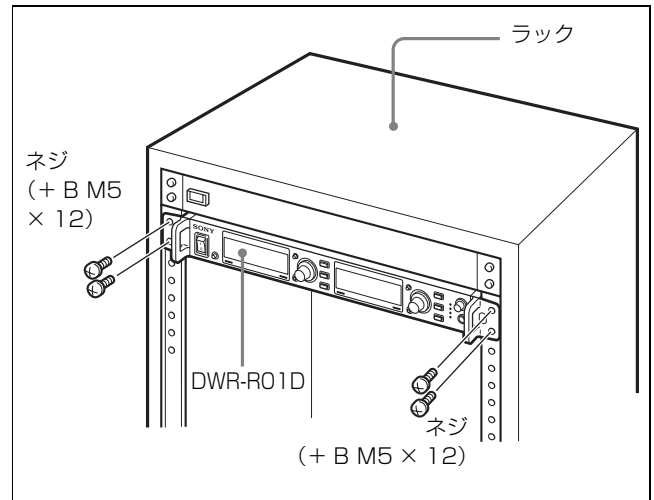
デジタル出力を外部からの同期信号に同期して出力する場合は、WORD SYNC IN 端子に外部同期を入力します。WORD SYNC IN 端子から入力した同期信号を、そのまま OUT 端子から出力します。
カスケード接続の終端にあたる DWR-R01D のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。

◆ WORD SYNC 端子の接続について詳しくは、「ワードクロックとオーディオの接続例」(18 ページ) をご覧ください。

準備

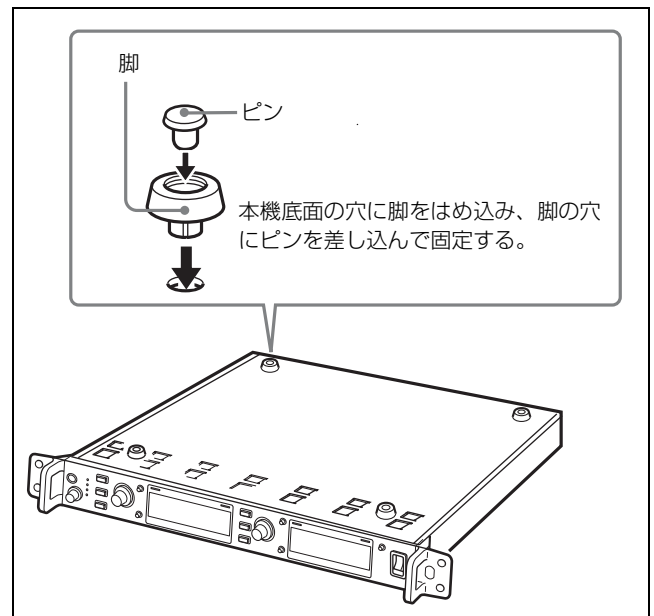
ラックマウント

本機を取り付けるラックは、EIA 規格 19 インチ標準ラックで奥行きが 350 mm 以上あるものをお使いください。



ラックマウントせずに使用するとき

本機の底面に、付属の脚 (4 個) を取り付けます。



ラックマウントするときには、脚を取り外してください。

システム構成例

本機では、構築したいシステムの規模や用途によって、以下のマルチチャンネルシステム、ST リモートシステム（7 ページ）、および NT リモートシステム（7 ページ）のシステムが構築可能です。

マルチチャンネルシステムに、リモートシステムを組み合わせることにより、運用の利便性が向上します。各システムで使用できる機器と最大設置台数は、以下のとおりです。

ご注意

イーサネット経由で RMU-01 を認識すると、本機は自動的に NT リモートシステムモードに切り換わります。RMU-01 を認識しない場合は、ST リモートシステムモードに切り換わります。

ワイヤレスリモートコントロール機能は、2.4 GHz 電波で本機や RMU-01 から変更命令を受けて、音声パケット内のメタデータで応答を行います。そのため、ワイヤレスリモートコントロール機能は、トランスミッターからの音声電波が届く範囲で使用してください。

	マルチチャンネルシステム	ST リモートシステム	NT リモートシステム
DWR-R01D	1～41 台	1～3 台	1～41 台
ソニーデジタルワイヤレストランスミッター	1～82 台	1～6 台	1～82 台
RMU-01	不要	不要	1～9 台
Wireless Studio ソフトウェア	レシーバー、トランスミッター、RMU のステータス監視に使用可能		

付属アンテナ使用例

本機の受信性能を最大限に生かすために、別売りの UHF アンテナ AN-820 や AN-01 などを使用して運用することをおすすめします。

ただし、サービスエリアが狭い場合には、付属のホイップアンテナを使用して運用することも可能です。

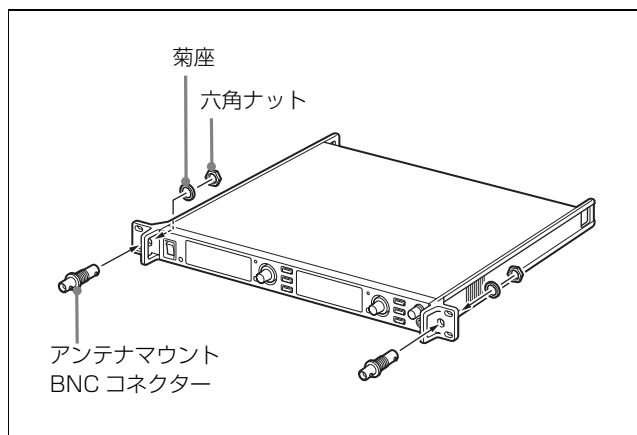
ご注意

付属のホイップアンテナを使用する際には、サービスエリアの確認を十分行ってください。

付属のホイップアンテナは、フロントパネルにもリアパネルにも取り付けられます。

フロントパネルへの取り付け

- 1 付属のアンテナマウント BNC コネクターをフロントパネルに取り付け、付属の六角ナット（14 mm）で締め付ける。

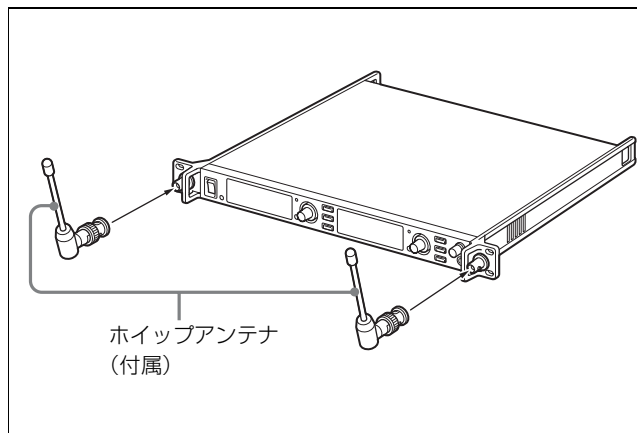


ご注意

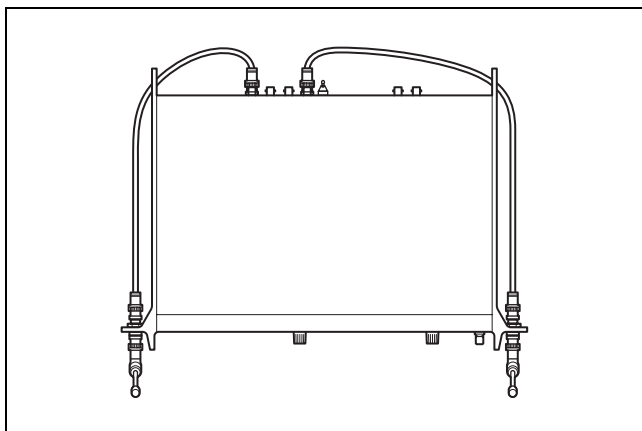
六角ナットがフロントパネルの表側になるように取り付けることもできます。

フロントパネルの裏側で六角ナットを締め付けることが難しい場合は、アンテナマウント BNC コネクターをフロントパネルの裏側から取り付け、表側から六角ナットを締め付けてください。

- 2 付属のホイップアンテナを取り付ける。

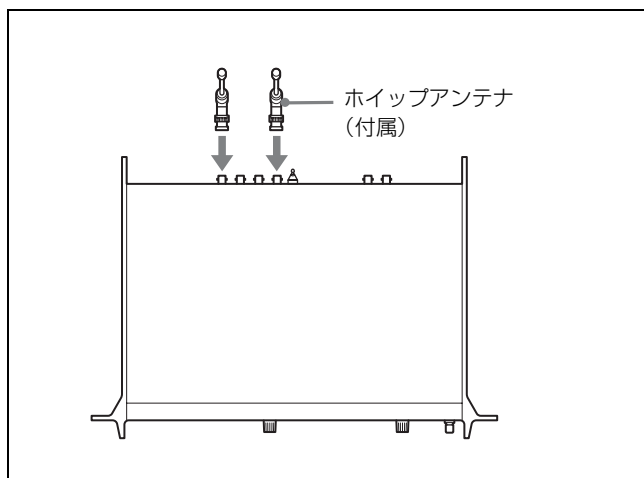


- 3** リアパネルの ANTENNA a/b IN 端子とアンテナマウント BNC コネクター間に、市販の BNC ケーブル (50 Ω 、60 cm 以上) を接続する。

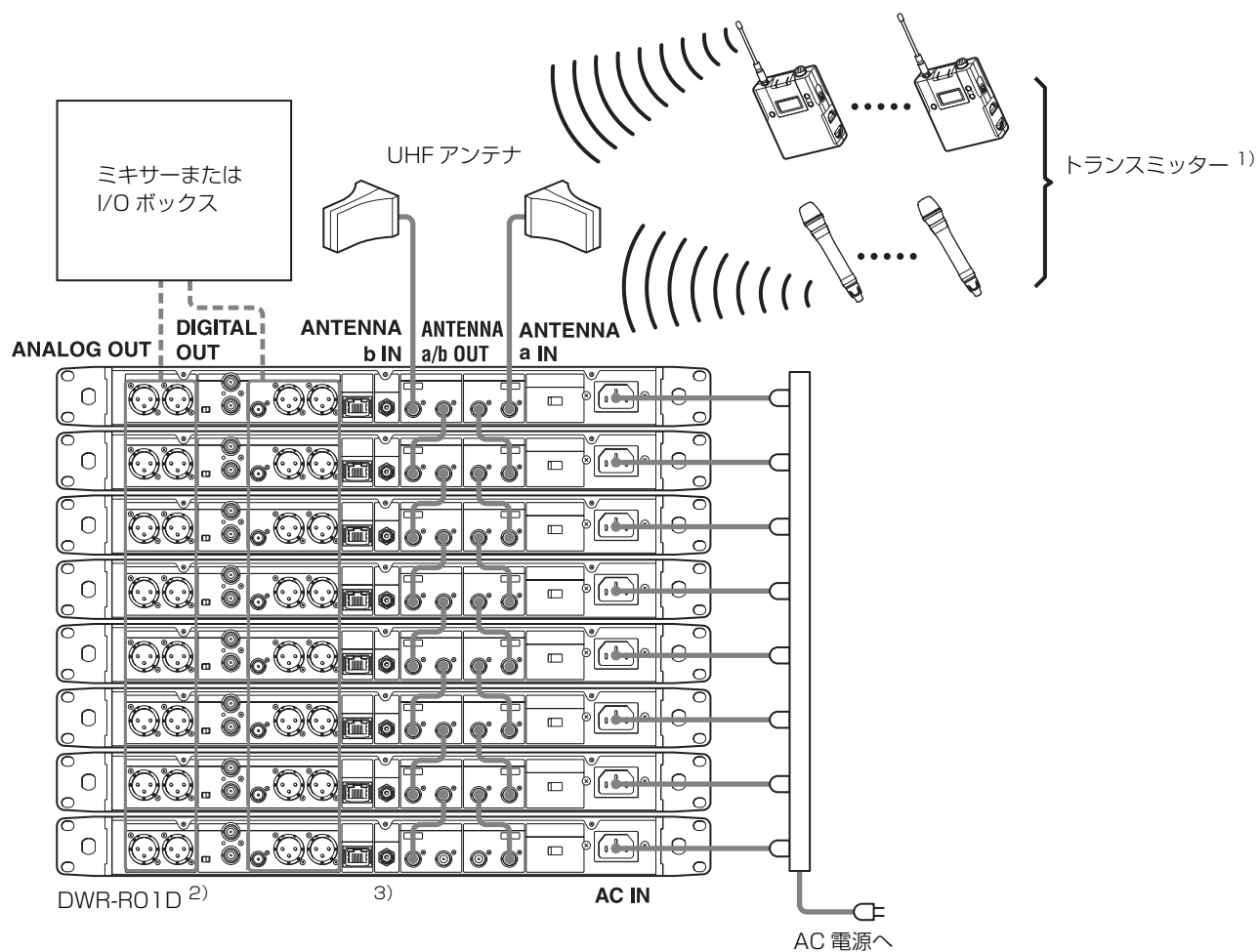


リアパネルへの取り付け

リアパネルの ANTENNA a/b IN 端子に付属のホイップアンテナを接続してください。



マルチチャンネルシステムシステム構成例



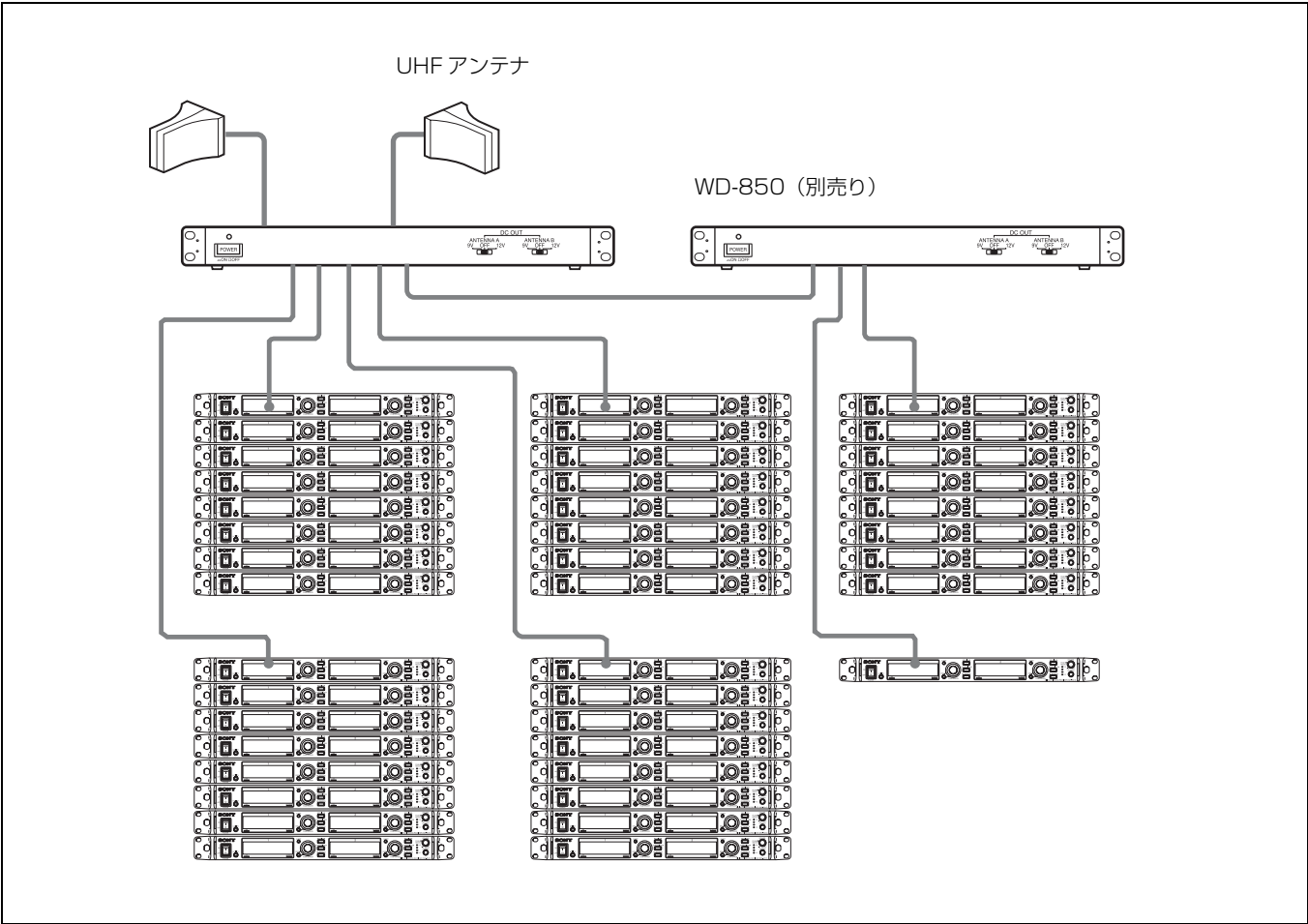
1) 本機 41 台使用時、トランスミッターは最大 82 台

2) WD-850 を使用して最大 41 台まで拡張可能

3) 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R01D は、ANT ATT a/b を「0dB」、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

アンテナディバイダー使用例

別売りの WD-850 を介して、本機を合計 41 台（82 チャンネル）カスケード接続するシステム例



ワードクロックとオーディオの接続例

デジタルオーディオ出力を正しく運用するためには、サンプリングレートコンバーターが搭載された機器を本機の DIGITAL OUT 1/2/3 端子に接続するか、本機の WORD SYNC IN 端子にマスターワードクロック信号を入力して同期する必要があります。

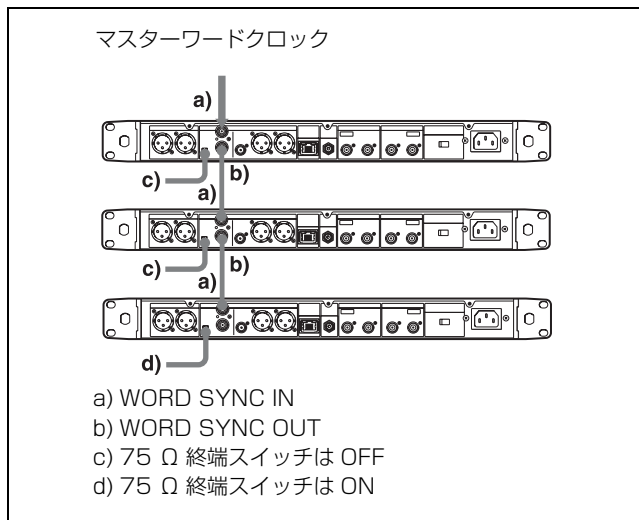
マスターワードクロック信号を入力して同期するシステムには、次の2種類があります。

ご注意

接続する台数が多い場合には、カスケード接続はおすすめできません。ワードクロック分配器の使用をおすすめします。

同期システム例 1

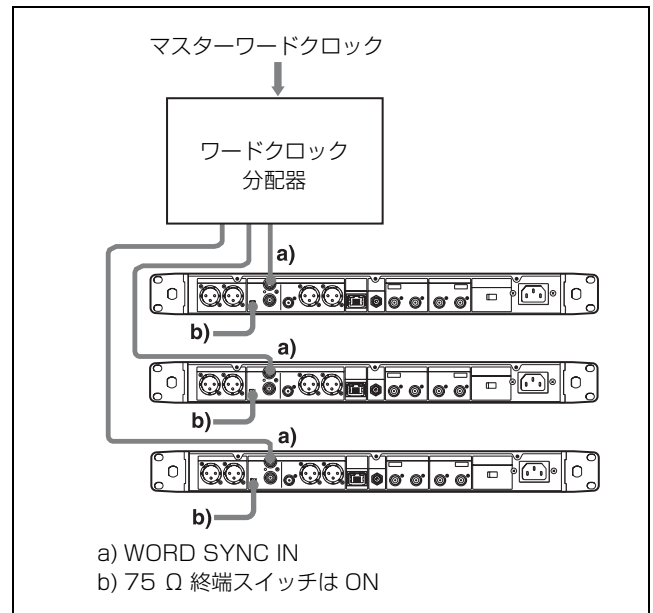
マスターワードクロック信号を本機の WORD SYNC OUT 端子でカスケード接続するシステムです。カスケード接続の終端にあたる DWR-R01D のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。



同期システム例 2

マスターワードクロック信号を分配器で分配し、それぞれの機器に接続するシステムです。

すべての DWR-R01D の 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。

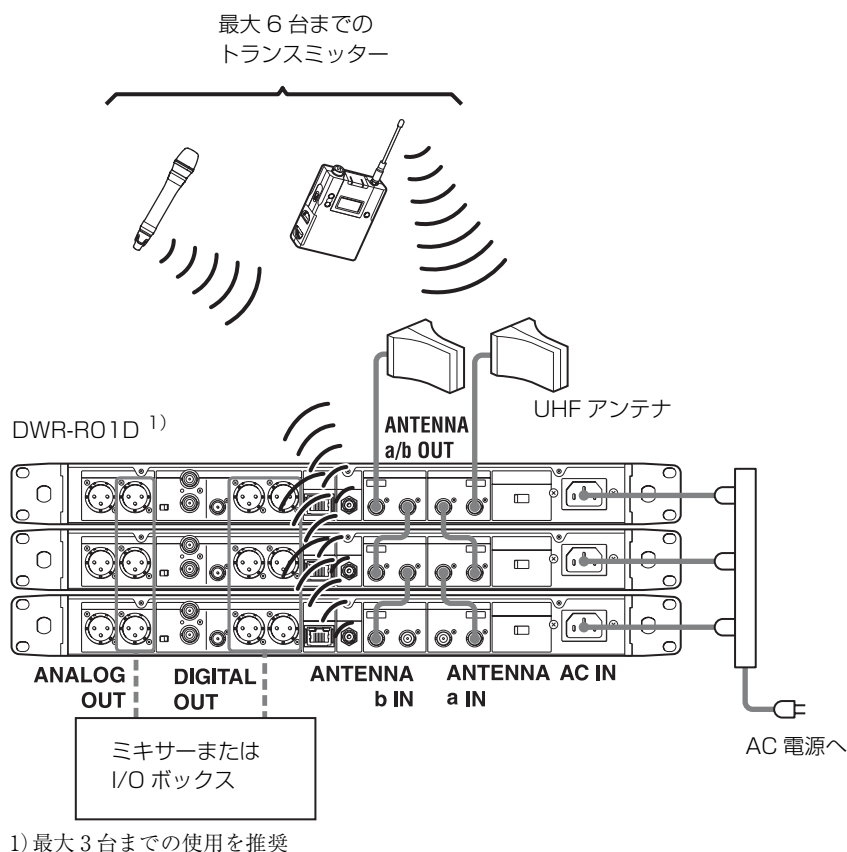


ST リモートシステムの例

本機のリアパネルの REM ANT 端子に装着されているアンテナで通信を行い、ワイヤレスリモートコントロール機能を動かします。

ご注意

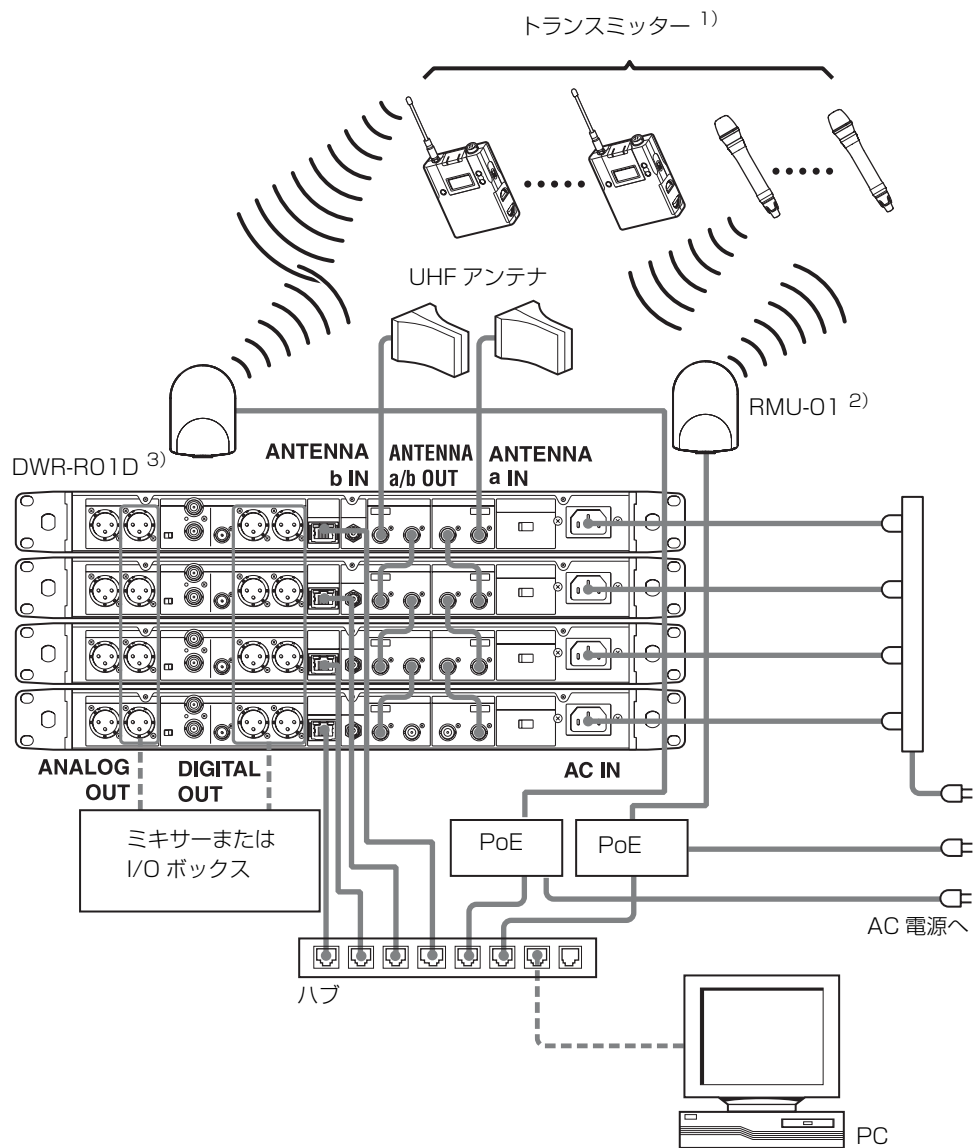
ST リモートでは、本機 1 台につき 1 チャンネルの電波を使用します。このため、システム内のトランスミッターの台数が多くなると通信電波が混雑し、リモートのレスポンスが遅くなる可能性があります。トランスミッターを 6 台以上ご使用になるシステムでは、RMU-01 を使用した NT リモートシステムをおすすめします。



NT リモートシステムの例

別売りの RMU-01 を使い、1 台の RMU-01 あたり最大 82 台のトランスミッターを制御することが可能です。RMU-01 は、運用エリア拡大のために最大 9 台まで設置することができます。

◆ RMU-01 の設置方法については、RMU-01 の取扱説明書を参照してください。



- 1) 本機 41 台使用時、トランスミッターは最大 82 台
- 2) NT リモート運用エリア拡張のため、9 台まで増設可能
- 3) WD-850 を使用して最大 41 台まで拡張可能

受信チャンネルの設定

本機では A 型帯域 285 チャンネルおよび B 型帯域 30 チャンネルから任意の受信チャンネルを選択できます。
本機には混信を起こさないチャンネルの組合せがグループとして用意されています。同一エリア内で、複数台のワイヤレスマイクやトランスミッターを同時に使用（多チャンネル同時運用）するには、電波の混信を避けるため、同一グループ内のチャンネルを使用する必要があります。

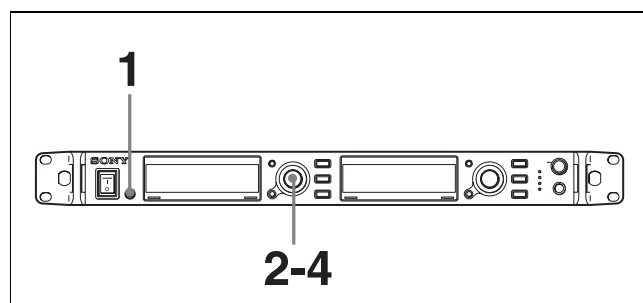
- ◆ 各周波数帯域のグループとチャンネルについては、付属の CD-ROM「Digital Wireless Receiver」に収録されている周波数リストをご覧ください。
- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（25 ページ）をご覧ください。

周波数帯域を選択する

本機は、ワイドバンドで受信が可能なレシーバーです。
グループ / チャンネルを設定する前に、周波数帯域の設定を行います。

以下の手順で、周波数帯域（BAND）を設定します。

以下のイラストでは、チャンネル 1 の操作部を使って説明しています。

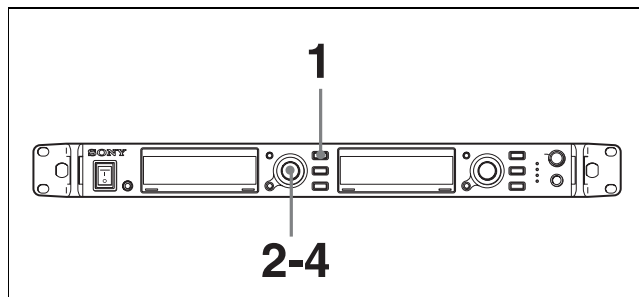


- 1 UTILITY ボタンを押して、UTILITY メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して RF にカーソルを合わせ（カーソルが合っている項目は、文字が反転表示になります。）、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して BAND にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 4 ジョグダイヤルを回して希望の周波数帯域を選択し、ダイヤルを押して決定する。

グループ / チャンネルを選択する

以下の手順で、グループ（GP） / チャンネル（CH）を設定します。

以下のイラストでは、チャンネル 1 の操作部を使って説明しています。



- 1 RECEIVER ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して GP/CH にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して希望のグループを選択し、ダイヤルを押して決定する。
- 4 ジョグダイヤルを回して希望のチャンネルを選択し、ダイヤルを押して決定する。

Cross Remote（27 ページ）が動作していると

本機の BAND/GP/CH 設定を変更すると、本機にペアリングされているトランスミッターに変更後の CH 設定が送られます。

で注意

本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。

その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。
禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

グループ ALL について

全チャンネルを選択できるグループです。お客様独自の多チャンネル運用プランでご使用ください。

グループ ALL は混信に対する考慮はされていません。多チャンネル同時運用の場合は ALL 以外でのグループ設定をおすすめします。

デジタル専用チャンネルプランでの運用時について

デジタルのみの専用チャンネルプランで多チャンネル運用を行う場合は、RF インジケータが運用エリア内で常時緑色点灯になるようにしてください。受信電波の入力が小さい場合、RF インジケータは赤色点灯または消灯になり、入力が大きい場合、RF インジケータは橙色点灯になります。必要に応じて接続アンテナのゲイン調整、アンテナアッテネーター、アンテナの向きなどの設定をしていただくことをおすすめます。

同一グループ / チャンネルの隣接使用について

仕切りや障害物がなく互いが見通せる広い場所で、2 か所（2 システム）以上を同一グループ、同一チャンネルで使用する場合は、混信を避けるため、目安としてシステム間の距離を 100 m 以上離してください。

アクティブチャンネルスキャン機能を使う

GP/CH 選択機能で選択されている GP（グループ）内のチャンネルリストからソニーのデジタルワイヤレスの電波を探します。

検知する電波の条件

- ソニーのデジタルワイヤレス信号であること
- 本機とトランスミッターの秘匿通信設定が合っていること

1 RECEIVER ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。

2 ジョグダイヤルを回して ACTIVE CH SCAN にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

「START SCAN?」とメッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。

スキャンが始まります。ソニーのデジタルワイヤレスの電波を検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。

NO を選択すると、スキャン機能を終了します。

4 音声を確認し、検出された電波を受信するときは、ジョグダイヤルを回して SET を選択し、ダイヤルを押す。

別のチャンネルを探す場合は、ジョグダイヤルを回して CONTINUE を選択し、ダイヤルを押してください。

ご注意

グループ内の周波数を 2 周探してもソニーのデジタルワイヤレスの電波が見つからなかった場合は、スキャンを終了します。

クリアチャンネルスキャン機能を使う

電波がなく、他の無線機器が使用していないチャンネルを探す機能です。この機能を使うとワイヤレスマイクを使うことができる空きチャンネルを簡単に探すことができ、混信を避けた設定が可能です。

GP/CH 選択機能で選択されている GP（グループ）に登録されているチャンネルの中から、妨害波が少ない順に空きチャンネルをリスト表示します。

1 RECEIVER ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。

2 ジョグダイヤルを回して CLEAR CH SCAN にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

「START SCAN?」とメッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。

スキャンが始まります。選択されている GP（グループ）内で空きチャンネルを検索し、RF 入力レベルの低い順に空きチャンネルをリスト表示します。

4 ジョグダイヤルを回して使用したい空きチャンネルを選択し、ダイヤルを押す。

Cross Remote（27 ページ）が動作しているときは

上記の手順 **4** でジョグダイヤルを押すと、選択した空きチャンネルを本機にペアリングされているトランスミッターに設定するかどうかの確認画面が表示されます。ジョグダイヤルを回して OK を選択し、ダイヤルを押すと、選択した空きチャンネルがトランスミッターに反映されます。

ご注意

- グループ内の周波数を 2 周探しても電波のないチャンネルが見つからなかった場合は、スキャンを終了します。
- 本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

秘匿通信機能を使う

ソニー製デジタルワイヤレストランスミッターで暗号化された信号を受信します。秘匿通信機能を使うと他者からの盗聴を防ぐことができます。

秘匿通信機能を使用する場合には、次のいずれかの方式を選択します。

暗号鍵方式 (SECURE KEY)：トランスミッターで自動的に作られる暗号鍵をトランスミッターとレシーバーの双方で使用し、1対1での秘匿通信を行う方式

パスワード方式 (PASSWORD)：ユーザーの決めた8文字までのパスワードを、複数台のトランスミッターとレシーバーに設定できる方式。グループでの秘匿通信が可能です。

ご注意

- トランスミッターとレシーバー（本機）の秘匿通信機能設定は同じ方式に設定してください。
- 暗号鍵方式を使う場合は、トランスミッターとレシーバーのペアリングを行ってください。

暗号鍵方式を使う (SECURE KEY)

トランスミッターとレシーバー（本機）の1対1の秘匿通信を行うときに設定します。

外部から読むことのできない暗号鍵をトランスミッター内で自動生成し、ワイヤレスリモートコントロール機能（27ページ）を使用してレシーバーに転送することで秘匿通信を行います。

トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は、暗号鍵の転送時に毎回新たに自動生成されるので強固な秘話伝送が可能です。

トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は電源OFF時にも保持されます。一度電源をOFFにしてから運用を再開する場合でも、前回と同じ秘匿通信が可能です。

1 トランスミッターの準備

暗号鍵の転送を行うトランスミッターの秘匿通信設定をSECURE KEYにします。

- トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 レシーバー（本機）の準備

- RECEIVERメニュー内のENCRYPTIONにカーソルを合わせ、ジョグダイヤルを押す。
- ジョグダイヤルを回してSECURE KEYを選択し、ダイヤルを押す。

3 暗号鍵の交換

本機とペアリングのできているトランスミッターを探索します。

トランスミッターを発見すると暗号鍵が交換され、暗号鍵方式の秘匿通信が開始されます。

ご注意

RF REMOTE 機能（27ページ）がOFFの場合は、暗号鍵を交換できません。

パスワード方式を使う (PASSWORD)

複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）の組合せで秘匿通信を行うときに設定します。

ユーザーの決めた同一のパスワードがトランスミッターとレシーバー（本機）に設定してあれば、音声の復調が可能です。複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）をグループとして運用したり、1台のトランスミッターを複数のレシーバー（本機）で同時に受信するときに便利です。

- 本機のRECEIVERメニューで、ジョグダイヤルを回してENCRYPTIONにカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- ジョグダイヤルを回してPASSWORDを選択し、ダイヤルを押す。

- 本機で最大8文字のパスワードを入力する。

ジョグダイヤルを回して入力したい文字にカーソルを合わせ、ダイヤルを押して1文字ずつ入力します。

パスワードの最後の文字を消すには

ジョグダイヤルを回してBSにカーソルを合わせ、ダイヤルを押します。

パスワードの途中の文字を削除したり、途中に文字を挿入したりすることはできません。

パスワードの入力を中止するには

ジョグダイヤルを回してCANCELにカーソルを合わせ、ダイヤルを押します。

- パスワードの入力が終わったら、ジョグダイヤルを回してOKにカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- トランスミッターの秘匿通信機能設定をPASSWORDにする。
- トランスミッターに、本機と同じ最大8文字のパスワードを設定する。

- トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

パスワードは定期的な更新をおすすめします。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

本機のメニューには次の 4 種類があります。

RECEIVER メニュー

本機（チューナー 1 またはチューナー 2）を設定する機能が含まれるメニューです。

TRANSMITTER メニュー

本機（チューナー 1 またはチューナー 2）と通信しているトランスミッターの現在の設定が確認できます。

RF REMOTE メニュー

本機（チューナー 1 またはチューナー 2）とトランスミッターとのペアリングと、ワイヤレスリモートコントロール機能の基本設定を行うメニューです。

UTILITY メニュー

入力信号やネットワーク機能、有機 EL ディスプレイの設定に関する機能などが含まれるメニューです。ここでの設定は、本機のチューナー 1 とチューナー 2 に共通です。

メニューの階層

RECEIVER メニュー

- GP/CH
- ACTIVE CH SCAN
- CLEAR CH SCAN
- ENCRYPTION
- BAL OUT LEVEL

TRANSMITTER メニュー

- NAME
- POWER SAVE
- RF POWER
- INPUT LEVEL
- ATT
- LCF
- +48V

- TIME
- INTERNAL SG
- PWR SW LOCK
- PWR SW STATE

RF REMOTE メニュー

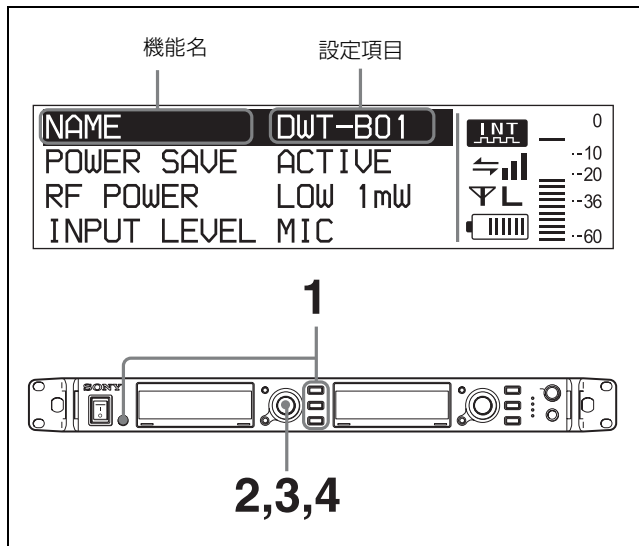
- RF REMOTE
- PAIRING
- MODE

UTILITY メニュー

- RF
 - BAND
 - ANT ATT a
 - ANT ATT b
 - ANT DC OUT
- AUDIO
 - SYNC SOURCE
 - DELAY ADJUST
- NETWORK
 - RECEIVER NAME
 - IP ADDRESS
 - SUBNET MASK
- ALERT FUNCTION
 - RF LOW
 - RF OVER
 - QL LOW
 - AF PEAK
 - TX BATTERY LOW
 - ENCRYPTION UNMATCH
 - EXTERNAL WORD SYNC UNLOCK
- DISPLAY
 - BRIGHTNESS
 - DIMMER MODE
- FACTORY PRESET
- VERSION

メニューの基本操作

以下のイラストでは、チャンネル1の操作部を使って説明しています。

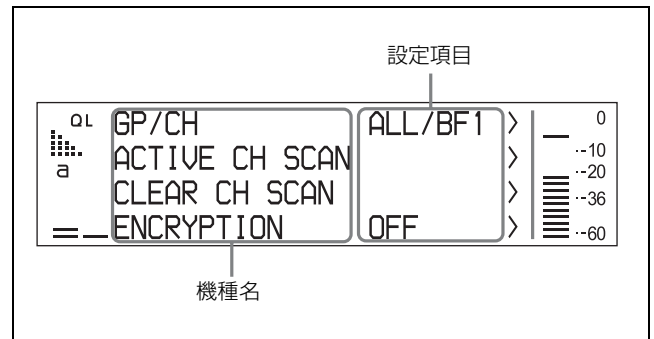


- 1 メニュー選択ボタン（RECEIVER、TRANSMITTER、RF REMOTE または UTILITY ボタン）のいずれかを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。
- 2 ジョグダイヤルを回して設定したい機能名を選択し、ダイヤルを押す。
 - ◆ 詳しくは、「メニューの構成と階層」（24 ページ）をご覧ください。
- 3 ジョグダイヤルを回して設定を変更する。
- 4 ジョグダイヤルを押して変更内容を確定させる。

RECEIVER（レシーバー）メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（25 ページ）をご覧ください。

RECEIVER メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。



ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ / チャンネルの選択 (GP/CH)

受信するグループとチャンネルを設定します。工場出荷時の設定は、ALL BF1 806.125 MHz です。

- ◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」（21 ページ）をご覧ください。

アクティブチャンネルスキャン機能 (ACTIVE CH SCAN)

アクティブチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「アクティブチャンネルスキャン機能を使う」（22 ページ）をご覧ください。

クリアチャンネルスキャン機能 (CLEAR CH SCAN)

クリアチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「クリアチャンネルスキャン機能を使う」（22 ページ）をご覧ください。

秘匿通信機能 (ENCRYPTION)

秘匿通信機能を設定します。

SECURE KEY：暗号鍵方式で設定する。

PASSWORD：パスワード方式で設定する。

OFF：秘匿通信機能を使わない。

◆ 詳しくは、「秘匿通信機能を使う」（23 ページ）をご覧ください。

アナログ音声出力レベルの設定 (BAL OUT LEVEL)

ANALOG OUT 1/2 端子から出力する音声信号のレベルを設定します。

MIC：マイクロホンレベル（基準レベル：- 58 dBu）

LINE：ラインレベル（基準レベル：- 12 dBu）

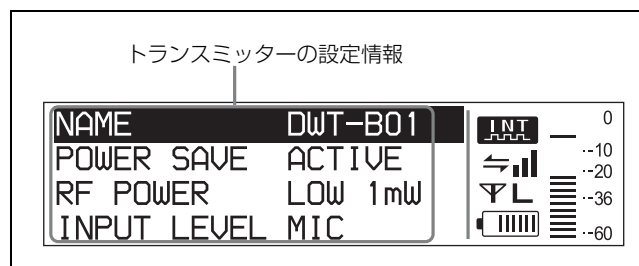
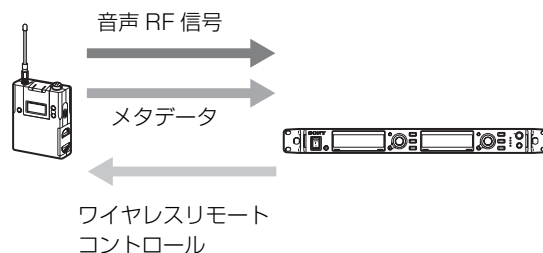
TRANSMITTER（トランスミッター仮想）メニュー

トランスミッター仮想メニューでは、トランスミッターから受信したメタデータをディスプレイに表示することで、トランスミッターの状態を確認することができます。

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（25 ページ）をご覧ください。

◆ トランスミッターの設定情報の変更方法については詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」（32 ページ）をご覧ください。

ソニーのデジタルワイヤレストランスミッターは、デジタル音声データだけでなくトランスミッター本体の設定情報もメタデータとして送信します。



ご注意

トランスミッターが電源 OFF またはサービスエリア外にいる場合は、設定項目表示のかわりに「NO DATA」と表示されます。またトランスミッターに機能が搭載されていない場合は「NO FUNCTION」と表示されます。

ここでは、表示される設定情報を説明します。

トランスミッター名称の表示 (NAME)

トランスミッターの名称の設定を表示します。

省電力設定の表示 (POWER SAVE)

トランスミッターの省電力設定を表示します。

送信電力設定の表示 (RF POWER)

受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)

トランスミッターの入力レベル設定を表示します。

アッテネーターの表示 (ATT)

トランスミッターのアッテネーター設定を表示します。

ローカットフィルター設定の表示 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を表示します。

+48 V 電源設定の表示 (+48V)

トランスミッターの +48 V 電源設定を表示します。

累積使用時間の表示 (TIME)

トランスミッターの累積使用時間を表示します。

内蔵信号発生表示 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号を発生させているかを表示します。

POWER スイッチのロック (PWR SW LOCK)

トランスミッターの POWER スイッチロック機能の設定を表示します。

POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)

トランスミッターの POWER スイッチの状態を表示します。

RF REMOTE メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(25 ページ)をご覧ください。

本機は、TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニューでトランスミッターの設定 (ローカットフィルターやアッテネーター操作、省電力設定など) をワイヤレス制御できるワイヤレスリモートコントロール機能を搭載しています。これにより、現場での運用や管理がより簡単に行えます。

ワイヤレスリモートコントロールには、デジタルワイヤレスオーディオの無線伝送帯域に影響を与えない 2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 方式を採用しています。

この機能は、RF REMOTE メニューで制御したいトランスミッターと本機をペアリングすることにより使用可能になります。

ご注意

トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能が動作しないことがあります。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

◆ 本機との組み合わせに適合しているトランスミッターのソフトウェアバージョンについて詳しくは、「送信機のソフトウェアバージョンについて」(38 ページ)をご覧ください。

Cross Remote を使う (RF REMOTE)

本機と本機と組み合わせて使うトランスミッターとの間で、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

OFF : ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。

ON : すでにペアリングされているトランスミッターとの間でワイヤレスリモートコントロール機能を使用する。

ペアリングを行う (PAIRING)

ペアリングとは、ワイヤレスリモートコントロール機能で操作を行いたいトランスミッターと本機の対 (ペア) を作ることです。

以下の手順で設定します。

- 1 RF REMOTE メニューで、ジョグダイヤルを回して PAIRING を選択し、ダイヤルを押す。

「START PAIRING?」とメッセージが表示されます。

- 2 制御したいトランスミッターをペアリングモードに設定する。

- ◆ トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。

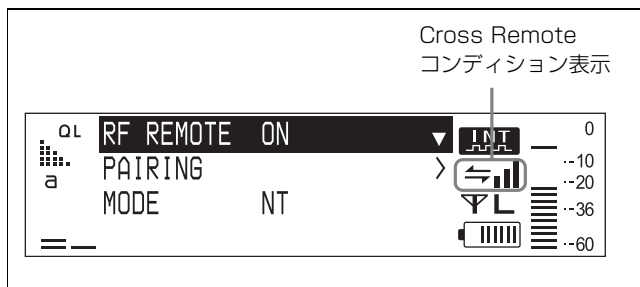
トランスミッターの検索を開始し、ディスプレイにペアリング可能なトランスミッター名が表示されます。

検索中に本機の操作ボタンを押すと、ペアリングモードはキャンセルされます。

- 4 ジョグダイヤルを回して、表示されたトランスミッターの名前の中からペアリングしたいトランスミッターを選択し、ダイヤルを押して決定する。

選択したトランスミッターとの通信が始まり、ディスプレイにワイヤレスリモートコントロールコンディション表示が表示されます。

コンディションレベル（）が上がり、リモートコントロールができるようになります。




ご注意


本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。


その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。


Cross Remote コンディション表示について


ワイヤレスリモートコントロールの電波状態を 4 段階で表示します。

：通信状況が良好

：通信状況がやや良好

：通信状況がやや良くない

：通信状況が良くない

：ペアリングされたトランスミッターと通信できない

RF REMOTE メニュー（27 ページ）で RF REMOTE を OFF にしている場合には、このアイコンは表示されません。

前回のペアリング設定で Cross Remote を使うには

トランスミッターの電源を ON にしたときに、本機のトップ画面にワイヤレスリモートコントロールコンディションアイコンが表示されていれば、そのまま使用できます。アイコンが表示されていない場合には、トランスミッターまたは本機の RF REMOTE 設定が ON になっているか確認してください。

ご注意

- RF REMOTE メニューの RF REMOTE を OFF から ON にしても、前回ペアリングされていたトランスミッター以外との通信はできません。別のトランスミッターとワイヤレスリモートコントロールを使うには、あらためてそのトランスミッターとペアリング設定してください。
- 複数のトランスミッターとペアリングすることはできません。
- ST リモートシステムでペアリングを行った場合でも NT リモートシステムでワイヤレスリモートコントロールを使うには、再ペアリングが必要になります。

ペアリングが完了しているときに本機で設定できるトランスミッターの機能

- グループ / チャンネル設定
- トランスミッター名称の設定
- 省電力設定
- RF 送信電力設定
- オーディオ入力レベル設定
- アッテネーター設定
- ローカットフィルター設定
- + 48V 設定
- トランスミッターの累積使用時間のリセット
- 内蔵信号設定
- POWER スイッチのロック設定

- ◆ トランスミッターの設定方法について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」（32 ページ）をご覧ください。

Cross Remote を停止するには

RF REMOTE メニューで RF REMOTE を選択し、OFF にします。

Cross Remote に関するご注意

本機のワイヤレスリモートコントロールは 2.4 GHz 帯を使用しているため、他の機器からの電波干渉を受ける可能性があります。

- ペアリングが完了しない場合（「Pairing fail」と表示された場合）は、再度ペアリングを行ってください。
一定時間内にトランスミッターとレシーバーの通信が完了しなかったことが考えられます。
近くで他のレシーバーがペアリングを行っている場合、完了しづらくなることがあります。
- リモートコントロールがつながりにくい場合は、RF REMOTE 機能をいったん OFF にしてから ON にし、再度トランスミッターと接続し直すことにより改善（干渉の少ないチャンネルに移動）する場合があります。

リモートのモードを表示する (MODE)

本機が ST リモート、NT リモートどちらのモードで動作しているのかを表示します。（表示のみ）

NT：RMU-01 を認識して NT リモートで動作しています。

ST：ST リモートで動作しています。

SEARCH：リモートのモード状態をサーチしています。

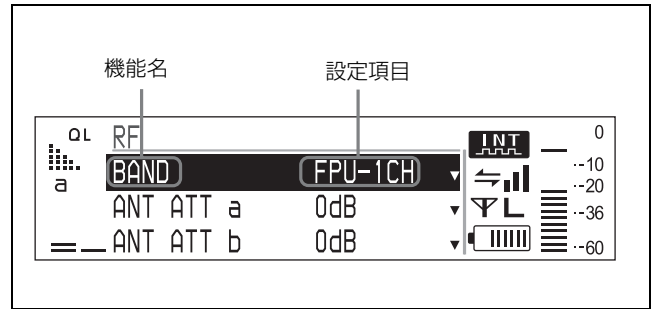
UTILITY メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（25 ページ）をご覧ください。

UTILITY メニューは、ディスプレイに関する設定などの本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。

ここでは、各機能と変更項目を説明します。

下線表記は工場出荷時の設定です。



ご注意

UTILITY メニューのすべての機能はレシーバーチャンネル 1 の操作部のみを使って設定しますが、両方のレシーバーチャンネルで有効です。

受信に関する機能 (RF サブメニュー)

周波数帯域の設定 (BAND)

トランスミッターの使用周波数帯域に合わせて設定します。

FPU-1CH：770.250 MHz ～ 778.875 MHz

FPU-2CH：779.000 MHz ～ 787.875 MHz

FPU-3CH：788.000 MHz ～ 796.875 MHz

FPU-4CH：797.000 MHz ～ 805.750 MHz

B BAND：806.125 MHz ～ 809.750 MHz

アンテナ入力のアッテネーター設定 (ANT

ATT a/b)

アンテナ入力のアッテネーターを設定します。ANTENNA a/b IN 端子に対して個別に設定できます。

0dB/5dB/10dB

ご注意

本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R01D は、ANT ATT a/b を「0dB」にしてください。

アンテナへの DC 電源供給設定 (ANT DC OUT)

ANTENNA a/b IN 端子に接続されたアンテナへの DC 電源供給を設定します。ここでの設定は、ANTENNA IN a/b 端子の両方に共通です。

OFF/9V/12V

ご注意

本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R01D は、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

音声に関する機能 (AUDIO サブメニュー)

同期信号の選択 (SYNC SOURCE)

本機の同期信号源を選択します。

32 kHz から 96 kHz までの外部同期 (ワードクロック) に対応します。

同期状態はトップ画面のデジタル出力同期表示部に「INT」または「EXT」で表示されます。「EXT」表示で、かつ同期がアンロックの場合には、表示が点滅します。

INTERNAL : 内部の同期信号 (48 kHz) で動作します。

EXTERNAL : 外部からのワードクロック信号に同期して動作します。

AUTO : 外部からの同期信号を優先し、外部同期がなくなった場合には自動的に内部同期に切り替わります。

音声遅延時間表示とチャンネル間の遅延差補正 (DELAY ADJUST)

デジタルワイヤレストランスミッターとデジタルワイヤレスレシーバーの間で通信をする際、各機器で行う音声信号処理によって音声が遅延します。

音声遅延時間の表示

本機は、デジタルワイヤレストランスミッターからメタデータで送られてくる送信機の遅延時間と、本機の遅延時間の合計をレシーバーチャンネルごとに表示します。

ミキサーやディレイプロセッサなどで遅延時間の調整を行う際には、目安にしてください。

表示例 :

1CH D : 3.4ms , A : 3.4ms

2CH D : 3.4ms , A : 3.4ms

D : DIGITAL OUT

A : ANALOG OUT

レシーバーチャンネル 1、2 の遅延時間補正

本機で使用する 2 台のデジタルワイヤレストランスミッターのモデルが異なる場合は、レシーバーチャンネル 1、2 の間で遅延時間に差が出ることがあります。その場合、本機能を ON にすると、遅延時間が大きいほうのレシーバーチャンネルに合わせてもう一方の遅延時間を補正することができます。

ミキサーやディレイプロセッサなどで遅延時間を補正する場合は、OFF に設定したままお使いください。

ネットワークに関する機能 (NETWORK サブメニュー)

本機の名前の設定 (RECEIVER NAME)

16 文字以内で本機に名前を付けることができます。入力しかたは、「パスワード方式を使う (PASSWORD)」(23 ページ) と同様です。

すでに名前を付けてあるときは、この機能を選択すると設定された名前を表示します。

IP アドレスの設定 (IP ADDRESS)

本機の IP アドレスを設定します。

サブネットマスクの設定 (SUBNET MASK)

本機のサブネットマスクを設定します。

補足

IP アドレス、サブネットマスクについて

- 一般回線をネットワーク接続しない場合には、以下のプライベートアドレスを設定してください。* には、ネットワーク内で重複しない任意の値を設定してください。

IP Address : 192.168.0.*

Subnet Mask : 255.255.255.0 (固定)

- 一般回線を使用する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

ご注意

IP ADDRESS の設定を変更した場合、NT リモートのペアリングは無効となります。再度ペアリングをしてください。

アラートに関する機能 (ALERT FUNCTION サブメニュー)

電波入力レベル低下 (RF LOW)

電波入力レベルの低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

電波入力レベル超過 (RF OVER)

電波入力レベルの過大入力を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

受信信号品質低下 (QL LOW)

受信信号品質の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

オーディオ入力のピークレベル超過 (AF PEAK)

オーディオ入力のピークレベルの超過を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

トランスミッターの電池残量低下 (TX BATTERY LOW)

トランスミッターの電池残量の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

秘匿通信設定の不一致 (ENCRYPTION UNMATCH)

トランスミッターと本機の秘匿通信設定の不一致を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

外部同期信号の同期外れ (EXTERNAL WORD SYNC UNLOCK)

外部同期 (ワードクロック) に同期できない場合に、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

ディスプレイに関する機能 (DISPLAY サブメニュー)

ディスプレイの明るさ設定 (BRIGHTNESS)

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。

設定できる値は下記のとおりです。

(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ディスプレイの自動消灯 (DIMMER MODE)

一定時間後に有機 EL ディスプレイの明るさを減光したり、消灯させる機能です。

AUTO OFF : 30 秒後に消灯します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

AUTO DIMMER : 30 秒後に減光します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

ALWAYS ON : ディスプレイの明るさ設定機能で設定された明るさで常時点灯します。

工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)

各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。

この項目を選択すると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。ジョグダイヤルを回して YES を選択すると、本機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION)

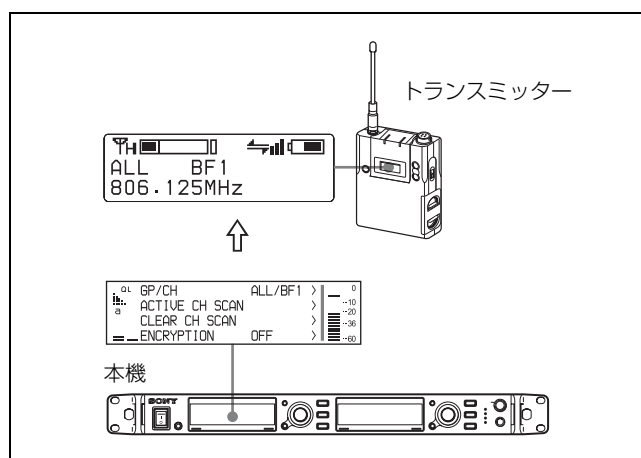
本機のソフトウェアバージョンを表示します。

本機でトランスミッターの設定を変更する

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(25 ページ) をご覧ください。

本機とペアリングされたトランスミッターの設定を、RECEIVER メニューの GP/CH 選択機能 (25 ページ) や TRANSMITTER メニュー (26 ページ) で変更することができます。

あらかじめ RF リモートメニューにてペアリングを行い、RF REMOTE を ON にしてワイヤレスリモートコントロール機能が動作可能な状態にしてから設定を行ってください。



グループ / チャンネルの設定 (GP/CH)

この設定のみ RECEIVER メニューの GP/CH 画面で行います。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」(21 ページ) をご覧ください。

トランスミッター名称の設定 (NAME)

トランスミッターの名称を設定します。

省電力設定 (POWER SAVE)

電池消費を抑えるため、ワイヤレスリモートコントロールでトランスミッターの電源をスリープに設定することができます。

ご注意

トランスミッターの設定を SLEEP (スリープ) に変更した場合、音声伝送用の電波がストップしてメタデータも送信されなくなります。このため、TRANSMITTER メニュー

のデータ表示は、POWER SAVE 機能の「SLEEP」以外はすべて「NO DATA」になります。

送信電力の設定 (RF POWER)

トランスミッターの送信電力を変更します。

オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)

トランスミッターのオーディオ入力レベルの設定を変更します。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

アッテネーターの設定 (ATT)

トランスミッターのオーディオ入力レベル設定が MIC に設定されている場合、アッテネーターの値を変更します。

ご注意

選択できるアッテネーターの値は、トランスミッターの機能により異なります。

ローカットフィルターの設定 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を変更します。

ご注意

選択できる周波数は、トランスミッターの機能により異なります。

+48 V 電源設定の変更 (+48V)

トランスミッターの +48 V を ON/OFF できます。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)

トランスミッターの累積使用時間をリセットできます。

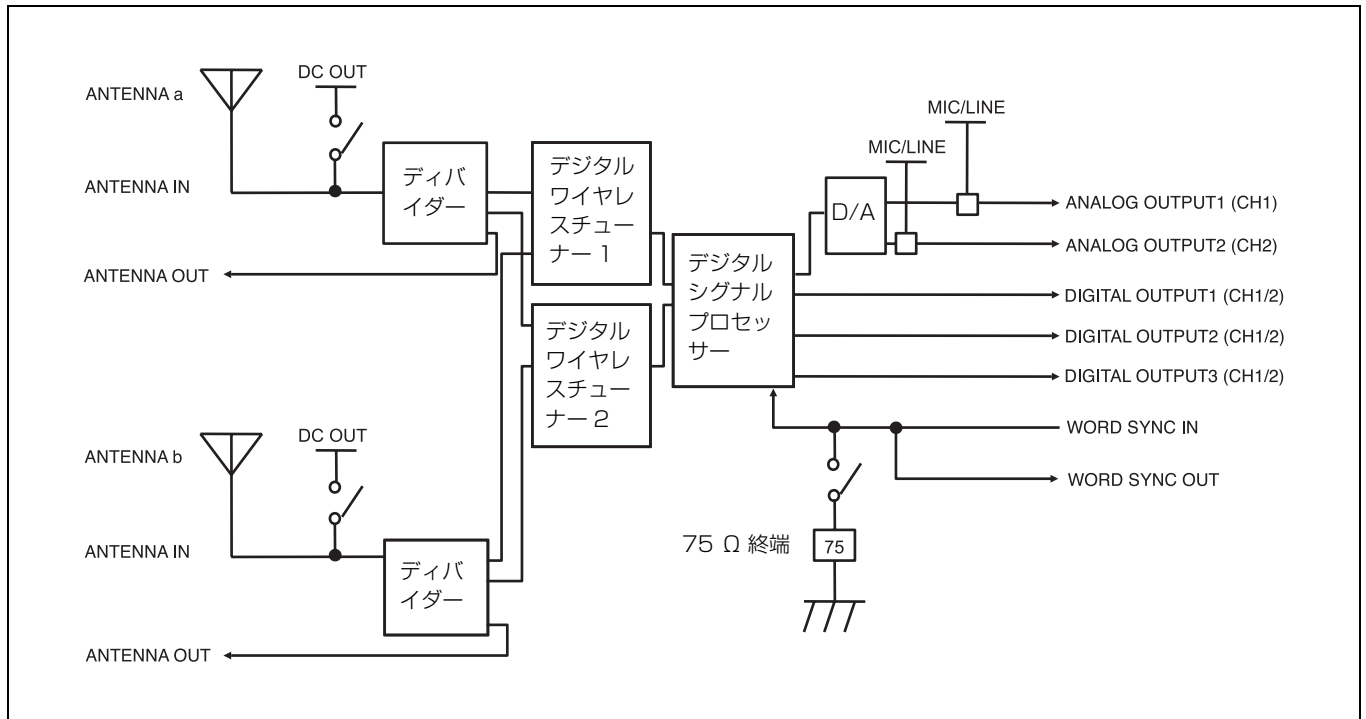
内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号を発生させるかどうかを設定します。

POWER スイッチのロック設定 (PWR SW LOCK)

トランスミッターの POWER スイッチをロックするかどうかを設定します。

ブロックダイヤグラム



ALERT インジケーターが点灯したら

他のインジケーターの表示	警告の原因	処置
AF/PEAK インジケーターが赤く点灯	トランスミッターのオーディオ入力ピークレベルを超えている。	トランスミッターのオーディオ入力アッテネーターを変更して入力レベルがピークを超えないようにしてください。 ワイヤレスリモート機能で本機からの設定変更が可能です（27ページ）。
電池残量表示が点滅	トランスミッターの電池が間もなく切れる。	トランスミッターの電池を交換してください。
QL メーターの点灯本数が減少	アンテナへの電波入力レベルの低下または妨害波（混信）などの影響で受信信号の品質が低下している。	(1) RF インジケーターが赤く点灯または消灯している場合は、アンテナへの電波入力不足が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。 (2) RF インジケーターが緑色点灯なのに、QL メーターの点灯本数が減少する場合は混信の可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 運用チャンネルプランに問題がないか確認してください。 ほかに運用している外来電波がないか確認してください。
RF インジケーターが橙色に点灯	アンテナへの電波入力レベルが 80 dB μ 以上ある。	多チャンネル同時運用に影響が出る可能性があります。次のいずれかを試してください。 <ul style="list-style-type: none"> アンテナからトランスミッターを離してお使いください。 本機の ANT ATT a/b 設定値を上げてください。ANT ATT a/b 設定値を上げた場合は、必ずトランスミッターとレシーバーとの伝送距離限界も確認してください。
RF インジケーターが赤く点灯または消灯	アンテナへの電波入力レベルが受信ぎりぎり、または受信不能。	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。
オーディオ入力レベルメーター部分に鍵アイコンが点滅	トランスミッターと本機の秘匿通信設定が合っていない。	トランスミッターと本機の秘匿通信設定を合わせてください（23 ページ）。
デジタル出力同期表示の「EXT」が点滅	DIGITAL OUT 端子からの出力信号が、外部同期ワードクロックに同期していない。	<ul style="list-style-type: none"> 同期信号入力部の接続が正しいか確認してください。 同期信号が本機の仕様にあっているか確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	意味
PLL UNLOCK	PLL がロックされていない。
FAN STOP	冷却ファンが動いていない。
PHONES OVER CURRENT	PHONES 端子からの音声出力が、許容電流を超えた。またはショートした。
ANTENNA OVER CURRENT	ANTENNA IN 端子からの DC OUT 出力が許容電流を超えた。またはショートした。
CPU EEP ROM NG	CPU EEP ROM のデータが正しくない。
RF EEP ROM NG	RF EEP ROM のデータが正しくない。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
音が出ない。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルが違っている。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルを合わせてください。
	トランスミッターの電源がOFFになっている。	トランスミッターの電源、電池を確認してください。
	秘匿通信機能の設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	トランスミッターとレシーバーの秘匿通信機能の設定が同じになっているか確認してください。
	WORD SYNC IN/OUT 端子の同期信号の入力 / 出力状態と 75 Ω 終端スイッチの設定があていない。	「ワードクロックとオーディオの接続例」(18 ページ)を参考に、接続および 75 Ω 終端スイッチの設定を確認してください。
音が小さい。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が大きい。	トランスミッターのアッテネーターを適正量に設定してください。
音が歪む。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	トランスミッターへの入力音量が過大です。音が歪まないようにトランスミッターのアッテネーターを設定してください。
	トランスミッターの入力レベルがMIC 設定のまま LINE レベルの信号を入力している。	トランスミッターに付属の取扱説明書を参考にして、入力レベルを LINE に設定してください。
音切れ、ノイズが発生する。	トランスミッターの電源を切っても、レシーバーの RF インジケータが点灯している。	周辺に妨害波が出ています。まず、レシーバーの RF インジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、トランスミッターを同じチャンネルに設定してください。2 本以上のトランスミッターを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。クリアチャンネルスキップ機能 (22 ページ) が便利です。
	2 台以上のトランスミッターが同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上のトランスミッターは使用できません。付属の CD-ROM「Digital Wireless Receiver」に収録されている周波数リストに従って、各トランスミッターのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、複数台のトランスミッターを使用する場合、それぞれのトランスミッターが混信しないように設定してあります。使用するトランスミッターを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
ワイヤレスリモートコントロールができない。	ペアリングされていない。	ペアリングを行ってください (27 ページ)。
	通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。	コンディションレベル (10 ページ)を確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。
	ペアになっていたトランスミッターが別のレシーバーとペアリングされた。	再度、コントロールしたいトランスミッターとペアリングを行ってください (27 ページ)。
	トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない。	トランスミッターソフトウェア対応表で、トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合しているか確認してください (38 ページ)。適合していない場合は、ソフトウェアをアップデートする必要があります。ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。
ディスプレイが暗い。	ディスプレイの明るさが低く設定されている。	メニュー設定でディスプレイの明るさを調節してください (31 ページ)。

使用上のご注意

使用・保管場所

- ・ 本機は周囲温度 0℃～50℃の範囲で動作します。
- ・ 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- ・ 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- ・ 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離れたり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

お手入れ

- ・ 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクター部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- ・ 表面やコネクター部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

本機使用上の注意

この機器のワイヤレスリモートコントロールで使用する周波数は 2.4 GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の電源を再度入れな

おし使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

- 3 不明な点その他お困りのことが起きたときは、「ソニー業務用商品相談窓口」までお問い合わせください。

2.4 D S 2

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 20m です。

送信機のソフトウェアバージョンについて

トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能および秘匿通信機能が動作しないことがあります。本機との組み合わせに適合しているトランスミッターのソフトウェアバージョンは下記の表をご覧ください。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ ソフトウェアバージョンの確認方法については、各送信機の取扱説明書をご覧ください。

機種名	ソフトウェアバージョン
DWM-01	バージョン 1.12 以降
DWT-B01（シリアル No.30999 以下）	バージョン 1.22 以降
DWT-B01（シリアル No.31001 以上）	バージョン 2.13 以降

受信電波が弱い場合の音声劣化について

デジタルワイヤレスシステムの場合、電波が届く限界距離まで音声品質が一定に保たれます。さらに受信電波が弱くなると、最終的にはデータの同期がとれなくなり音声断となります。そのような特性を踏まえ、ソニーのデジタルワイヤレスシステムでは電波の到達限界点から音声断にいたる音声劣化の領域において、大きなノイズ音の発生を抑え、極力自然に音声劣化していくようデジタル処理を行っております。

主な仕様

チューナー部

受信方式	スペースダイバーシティ方式
回路方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数	A 型 FPU-1CH 帯：770.250 MHz ～ 778.875 MHz (70 波) FPU-2CH 帯：779.000 MHz ～ 787.875 MHz (72 波) FPU-3CH 帯：788.000 MHz ～ 796.875 MHz (72 波) FPU-4CH 帯：797.000 MHz ～ 805.750 MHz (71 波) B 型 806.125 MHz ～ 809.750 MHz (30 波)
チャンネルステップ	125 kHz
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
ANTENNA a/b IN 端子	BNC-R、50 Ω (2)
ANTENNA a/b OUT 端子	BNC-R、50 Ω (2)
感度	20 dBμ 以下 (ビットエラーレート = 1×10^{-5} 時、S/N 劣化なし)

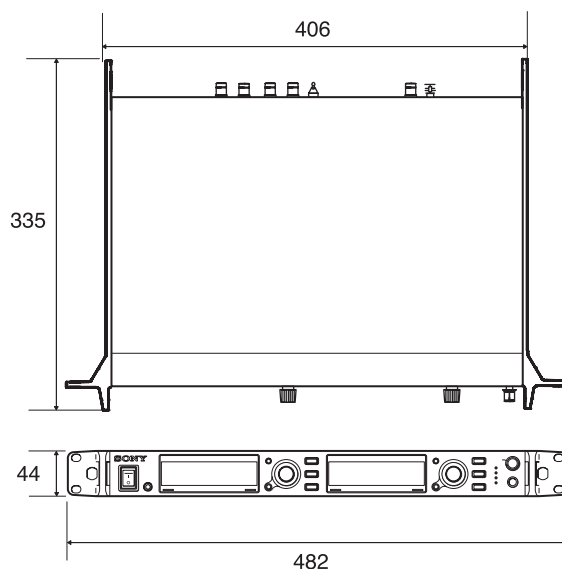
オーディオ部

ANALOG OUT 1/2 端子	XLR-3-32 タイプ、47 Ω 以下 (2)
DIGITAL OUT 1/2/3 端子	XLR-3-32 タイプ、110 Ω (2) BNC-R、75 Ω (1)
WORD SYNC IN/OUT 端子	BNC-R (入力 / 出力：各 1) 75 Ω 終端切り換えスイッチ付き
基準出力レベル (0 dBu = 0.775 Vrms)	アナログ：- 58 dBu (MIC 出力時) - 12 dBu (LINE 出力時) デジタル：- 36 dBFS
ダイナミックレンジ	106 dB 以上 (A-weighted)
全高調波歪率	0.03% 以下
音声遅延時間	1.9 msec (アナログ出力) 1.9 msec (デジタル出力)

一般

電源電圧	AC 100 V/120 V 切り換え
------	---------------------

消費電力	22 W
許容動作温度	0 °C ～ + 50 °C
許容保存温度	- 20 °C ～ + 60 °C
外形寸法図 (単位：mm)	



質量	約 4.1 kg (付属アンテナ取付け時)
ワイヤレスリモートコントロール	2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 準拠
LAN (10/100) 端子	RJ-45 モジュージャック (1) 100BASE-TX：IEEE802.3u 準拠 10BASE-T：IEEE802.3 準拠
付属品	ホイップアンテナ (2) アンテナマウント BNC コネクター (2) 電源ケーブル (1) 本体脚 (4) 保証書 (1) 取扱説明書 (冊子) (1) 取扱説明書 (CD-ROM) (1) PC コントロールソフトウェア (CD-ROM) (1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>